会　議　録

名　　称	令和４年度　第１回坂戸市商工業ビジョン審議会
開催日時	令和４年１０月１７日（月） 午後３時００分　開会・午後４時２０分　閉会
開催場所	坂戸市役所２階　２０１会議室
出席者の氏名	鏑木 惠美 委員、髙橋 佑輔 委員、武藏 清貴 委員 赤澤　 完 委員、房野　 洋 委員、関口 記嗣 委員 吉野 裕太 委員、山科　 博 委員、石津 誠一 委員 山﨑 隆一 委員、鈴木 雅勝 委員、浅尾 貴子 委員 上野　 暁 委員、宮﨑 信二 委員　【１４名】
欠席者の氏名	平　 茂夫 委員　【１名】
傍聴人	２名
事務局職員の職・氏名	環境産業部　石坂部長、浅野次長 環境産業部　商工労政課　井上課長補佐、髙橋主任、木下主任 業務委託受託者：埼玉りそな産業経済振興財団　棚沢・宇田
会議次第	１　開会 ２　あいさつ ３　議題 ４　閉会
配布資料	資料１ 第２期坂戸市商工業ビジョンについて 資料２ 商工業ビジョン 策定スケジュール 資料３ 坂戸市商工業ビジョン（現ビジョン） 令和４年度 坂戸市消費者アンケート調査 令和４年度 坂戸市商業・サービス業アンケート調査 令和４年度 坂戸市工業・建設業等アンケート調査 アンケート設問一覧 アンケート調査票の一部修正について

議　事　の　経　過	
発　言　者	議 題 ・ 発 言 内 容
事務局	１　開会 委嘱状交付：市長より市民代表 鏑木委員に委嘱状交付 審議会出席状況：委員１５人中１４人が参加。審議会の成立
市長	２　あいさつ お忙しい中、ご出席を賜りありがとうございます。「坂戸市商工業ビジョン」は、本市のあるべき商工業の姿、活力ある商店街の形成や効率的な企業集積につながる商工業の活性化の方策を提案するため作成をしております。本審議会は現計画が新型コロナウイルスの影響により、計画期間を１年延長し、令和５年度での推進期間が終了いたしますことから、今後の本市の商工業の振興について検討をお願いするものであります。次期計画では、商工業の現状の把握、環境の変化の分析とその課題を整理し、審議会委員皆様のそれぞれのお立場から活発なご意見を賜りますようお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。 ○委員、事務局、業務委託受託者自己紹介 ３　議題 （１）会長の選出について 指名推選により、鈴木委員が会長に選出 （鈴木委員会長席へ移動）
会長	城西大学経済学部で教鞭を取らせていただいております、鈴木でございます。マクロ経済学や開発経済学というところが専門です。バブル経済が崩壊し、１９９７年～１９９８年にはアジア通貨危機があり、それ以来経済が縮小し、デフレ経済ということで、最近は少し物価が上昇しているが、これも他力本願的なあまり意味のない物価上昇でございます。こうしたところから、国、地方からどのように経済発展を考えていくのかという一番ターゲットとなるのが、マクロ経済学や開発経済学というところでございますので、どこまでお役に立てるかわかりませんが、約２年間宜しくお願いしたいと思います。
会長	（２）職務代理の指名について 職務代理の指名については、会長が行うことから、会長より浅尾委員を指名。

職務代理	ご指名いただきました、浅尾です。皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。
会長	（３）席次の指定について 席次について意見はあるか。 (意見なし、現在の席次で確定)
会長	（４）第２期坂戸市商工業ビジョンについて 事務局より説明願いたい。
事務局	市長より鈴木会長へ「坂戸市商工業ビジョンの策定について」の諮問書を渡します。 市長より鈴木会長へ諮問書を交付 (各委員には諮問書（写）を配布) (市長公務により退席) 事務局より、第２期坂戸市商工業ビジョンについて説明
会長	第２期坂戸市商工業ビジョンについて、ご意見・ご質問はあるか。
事務局	今回の第２期坂戸市商工業ビジョンについては、添付資料３の、現在の坂戸市商工業ビジョンを踏まえた上で、本市の商工業の現状と課題を整理して、必要な取組を計画的に実施することが可能となる計画を策定していく形で進めて行きたいと考えているので、ご協力願いたい。
会長	前回のビジョンで、うまくいったところや、うまくいかなかったところについてご説明いただけないか。
事務局	現計画は、「やる気」を「つなぐ」、「地産地消」をすすめる、「坂戸ブランド」をつくる、ということを基本方針として定め推進している。現在市内の優れた商品をＰＲしていく特産品推進事業ということで、さかど自慢の逸品というものを認定しＰＲに努めており、先日も坂戸駅の南北自由通路において、自慢の逸品のミニマルシェを開催した。今年度は今月、来月も開催を予定しており、特産品推進事業の成果と考えている。 また、創業経営発達支援事業ということで、市内の空き店舗で創業する方に、家賃や改修費の補助を行う事業で一定の効果があったと考えている。

委員	委員の役割として、具体的にどのようなことをしたら良いのか。ふるさと納税でお世話になっているが、坂戸市の生産者として、ブランディングとかという点で、非常に興味があるが、そういったところであれば多少お役に立てるのではないかと思っているが、この会議に委員はどのように関わるのが良いのか、方向性等お伺いしたい。
事務局	今回は消費者アンケートと事業者アンケートを実施し、現状把握や現状分析を行い、今後素案が作成されていく段階で、皆さんそれぞれのお立場でご意見をいただきながら進めていきたいと考えている。普段仕事をしている中で感じていることなどについて、ご意見をいただければ、反映できるものは反映したいと考えている。
委員	資料３で細かいところは出てくるかと思うが、10 課が集まって庁内検討会が行われたという記載がある。坂戸市には駅が４つあり、商工業ビジョンといっても、最初にくるイメージは賑やかさを創出するのか、消費者を中心にして策定していくのか、庁内検討委員会では、どの駅を中心にするとか、観光を中心にしてまちを発展させていくのか、普段の買い物を中心として考えて発展させていくのか、その辺を絞って考えていくのか、坂戸市全体を網羅的に考えているのかについてはどうなのか。 坂戸市には、坂戸駅、北坂戸、若葉、西大家４つの駅があるが、それを中心にすると、アンケートに出てきている問題を分散化させてしまい、核がないような気がする。核があって初めて賑やかさだとか便利さなどが出てくる気がする。庁内検討委員会としてはどの辺のことを中心に考えていたのか。
事務局	庁内検討委員会については、審議会の前に関係部署からアンケートの内容について意見をいただいた。
委員	テーマは絞ったか。
事務局	テーマは絞っていない。本日のアンケートの内容について検討した。
委員	テーマを絞らないと、審議していく内容が良く見えて来ないような気がするが。いくつかに絞った方が審議しやすい気もするし、問題点も出てくるような気がする。坂戸市全体のことを考えてくださいと言われても、仕事も活動エリアも違う中では、実りあるビジョンができるかと考えた時に、少しどうかなと感じている。

事務局	今回、消費者向けのものと、商業・サービス業の方、工業関係の方向けにアンケート調査を実施させていただき、それぞれのアンケートの中で課題を抽出させていただくことになる。その中で、課題として「こういうものがある」という生の声を吸い上げた上で、その中でどうしたら市内の商工業が発展していくのかなどについて、皆様にご協議いただけたらと考えている。
委員	それぞれの委員が抱えている不安感だとか、こうしたら良いのではという希望があるかと思うが、そういったものを出し合う場ということで良いか。
事務局	まず、アンケートとしてはそういった形になる。それに併せて、委員の方々が日々感じている課題について、提案として意見していただき、審議会の中でどうしていけば坂戸市の発展に繋がるかについてご協議いただければと考えている。現行のビジョンでも述べさせていただいているが、事業の推進に当たっては、自助・自立、それぞれの方が主体となって進めていく必要がある。その中でも、やる気のある事業所を支援するという部分があるので、課題の抽出と併せて事業者の方それぞれが置かれている状況について、意見を出し合って、より良い第２期計画を策定していきたいと考えている。
委員	それぞれの事業者で、やる気のない事業者はいないと思う。全ての事業者がやる気があって、何とかしたいと思っている。行政に期待することがあるかと思うので、それを吸い上げるのは大変かなとも思う。フリートークで良いということですね。
事務局	それぞれのテーマに沿ってお願いしたい。
会長	他にご意見などはあるか （特になし）
	（５）消費者、事業者アンケートについて 事務局より説明願いたい。
事務局 （りそな）	埼玉りそな産業経済振興財団より説明
会長	アンケートに関する説明について、ご意見・ご質問はあるか。
委員	このアンケートに農業を入れなかった理由は何か。

事務局	農業については、農業振興課にて農業振興ビジョンを策定しており、商工業ビジョンは､商工業分野でのビジョン策定としている。
委員	各地域で特色ある野菜を商業化して販売しているところがたくさんある。特に新潟のトマトなど、驚くべき糖度のものを出しており、一箱４千円程度のものが飛ぶように売れている。農業というよりブランド品になっているので、並行して見ていくのが良いのではないかと思った。 全体的にアンケートが平凡なアンケートと感じた。後継者がいるかどうかなど、少子高齢化でどこも頭を悩ませている。平凡なところをとっても、これまでのデータで、ほぼわかっているのではないかと思う。もう少し特色を出すような、例えば消費者アンケートの５番、坂戸市の特産品についてお伺いしますと聞かれても、「どうするの」というような感じがする。全国的に少子高齢化の中で、坂戸市の魅力をどうやって出せば活性化するかなどを討議すれば、アンケートはアンケートで、市民がどのようなことに興味があるか、商業、工業、サービス業でグローバルに世界に発信していくためにはどうすればいいのかとか、聞くだけではなく、アドバイスしてあげたりした方が良いのではないか。
事務局	アンケート調査については、経年変化や、繰り返しの設問や新たな視点の設問も必要と考える。また特産品の話があったが、特産品についてはＰＲしているが、アンケートの回答によっては、他にＰＲの方法が必要なのではないかということもあり､質問に加えた。一方、アンケートの部分に合わせて、委員さんのご意見を踏まえて計画を策定していきたいと考えている。アンケートの質問の中で具体的にこうした方が良いのではないかという意見があれば､検討したい。
委員	ＥＣに関するアンケートについて、現在は全ての業種でＢtoＣのようなビジネススタイルを行っているところはたくさんある。その下の質問に関しても､そのゾーンなくして、ＤＸなどと言われてもあまり意味がないような気がする。全業種でＥＣビジネスを広義に捉えた調査は絶対必要と考える。
事務局	今回のアンケートは色々な視点で捉えるところがあるかと思う。先ほど後継者について、平凡な質問とのご意見もありましたが、基本的なところで、坂戸市の消費者や､商工業の事業者の方々の基本的なところを押さえてから、今後の商工業ビジョンを策定する方向で進めていくことになるので､特定の業種というよりも幅広く、皆さんが参加しやすく、意見しやすい質問項目にさせていただいている。今回はアンケートの他に事業者ヒアリングも予定しているので、そういった中で色んな視点から意見をいただくが、今回は広い

	意味でのアンケート調査、それに加えて事業者さんからの具体的なご意見をいただく予定になっているのでご理解いただきたい。
委員	広い意味でＥＣの質問をしたらどうかと言っているので、建設業でも家のリフォームであったり、どうやっているかわからないが、皆さんがＥＣとして捉えていることはたくさんあるかと思う。なぜ、限定されないといけないのか。その下の質問で、ＥＣに取り組んでいないところがＤＸの推進を手がけているのかというのは、段階として、アンケートとしてどうなのだろうか。 限定しないで、広く会社としてどのように利用したいかということでも良いかと思う。これからＥＣのところは入り口として必ず必要で、ふるさと納税自体もＥＣで販売しているようなものですから、やっている、やっていないだけでもいいからアンケートで捉えてはどうか。
事務局	この設問の趣旨として商業でイメージしているのが、アマゾンや楽天等で販売しているかの、小売サイドの観点からの設問として設けさせていただいたものとなっているが、工業・建設業に関しても調整したい。
委員	工業という立場で参加させていただいているが、実際にはＢtoＣの事業を６年くらい前から行っており、そちらがメインになっている。単純に工業といっても部品供給であったり､雑貨品を扱っているところでは全然違うので、そういった実情も含めて申し上げている。それをやめてしまうと、この先のビジョンの策定においても、限られたものになってしまうので、そこのところはもう少し検討された方が良いのではないか。
事務局	工業・建設業に関しても調整したい。
委員	アマゾンや楽天とかだけではなく、いろんなスタイルが出ているので､そういったことも含めてということです。現状そういった状態になっているのに、入っていないというのは十分な情報を得られないのではないか。
委員	関連して、ホームページをつくっているか、ＳＮＳで発信しているかという項目をつくっていただけると良いのではないか。ＥＣやＤＸの前に、そもそも自分でそういったことができない事業者に何らかのサポートをしてあげるというところから始まると思うので、その辺の意向や現状の把握の項目があった方がより良いのではないか。
事務局	項目については検討したい。

委員	事業継続にあたり、どのような問題がありますかくらいの質問を最後に入れていただけないか。それぞれの事業によって、大きな企業や小規模な企業、個人事業者もあるので、どういうことが問題となっているかを記載していただくと、それに対する対策ができるのではないか。
事務局	問６－１で経営課題についての項目があり、最後に自由意見があるので、アンケートを踏まえて記載いただくところで把握できると考えている。
委員	商業・サービス業アンケートの問６－２、６－３、６－４、６－５で、ＤＸという言葉自体がわからない方がいるかと思うので補足が必要ではないか。日本として２０５０年までにカーボンニュートラルということだが、坂戸市の商工業ビジョン策定において、カーボンニュートラルまで落とし込んだ方が有用なのかということはいかがでしょうか。
事務局	ＤＸの補足として注釈入れたい。カーボンニュートラルについては、ＳＤＧs､エネルギー政策に関しても意識されている会社は多い。小さい企業でも環境に対する意識を持っていると思うので、実際坂戸市にどれくらいそういった取組をしている会社があるのかを把握する上で項目に入れさせていただいた。
委員	弊社で言えば、車を使う会社なのでグリーン経営など取り組みさせていただいているが、各社で取り組まないとできないことなのでどうなのかなと感じた。ＤＸだけではなく、ＵＸとか、〇〇Ｘというのが増えているので、そういったところも、坂戸市の中の事業者が何に取り組んでいるのかをヒアリングする方が良いのではないか。あなたの店舗でどういったことをやっているのかということを共有できるようなアンケートにした方が良いのではないか。ＤＸに縛られない方が良いのではないか、ＤＸを行っている人がこの地域にどれだけいるのか、理解している人がどれだけいるのかということもあるので、取組内容を引き出して共有できるようにしたほうが良いのではないか。地域の現状が見えないのではないかと思うので検討いただけないか。
事務局	Ｊークレジットなども含め用語については調整させていただく。
委員	消費者アンケート問２－６について、公共交通機関（バス､鉄道）にタクシーが入っていない。坂戸市にはさかっちワゴンがあり、弊社でも取り組ませていただいている中で、利用者には買い物をされる方もいるので、選択肢にさかっちワゴン、バスを入れていただくと答えやすいかと思う。

事務局	調整したい。
会長	他にご意見などあるか。アンケートについては以上としたい。 （6）その他、事務局よりお願いしたい。
事務局	スケジュールについて、次回の審議会は２月下旬から３月上旬を予定している。文書で連絡させていただく。
会長	他に皆様からご意見などあるか。
委員	先ほどＤＸの話が出たが、商工会の立場から言うと、小規模事業者が多く、ＤＸを使えば便利なのは便利だが、良く理解をしていない、アンケートの取り方によっては、理解できる人とできない人と極端に出てくるかと思う。年齢別に考えてアンケートを取っていかないと、非常に偏った結果が出てくる可能性があるかと思う。コロナ禍で政府から補償金や還付金など、色々な支援金が来たりしているが、補償金などもインターネットを通して行って欲しいことが多い。そのこと自体も理解できない、申請の仕方や貰い方など全部商工会に相談に来る会員が多い。皆さんが考えているＤＸは波及していないと思う。その辺、行政側でどのようにフォローできるか、または商工会でどのようにフォローできるか、正直頭を悩ませている。年齢に偏らないようにアンケートを取っていただきたい。
事務局	アンケートにより現状を浮き彫りにしたいと考えている。クロス集計などによりしっかり分析したい。
会長	議事終了
事務局	閉会